

日立総合病院における下剤フローチャートの作成

日立総合病院 薬務局

○根本昌彦 松本玄紀 田村明広

1 はじめに

刺激性下剤であるセンノシドは習慣性のために常用しないこととなっているが依然として日常診療の中では多く常用されている実情がある。そこで、今回、便秘症治療の際に医師へ処方提案する指標として、下剤フローチャートを作成し、運用したので結果を報告する。

2 方法

(1) 下剤フローチャートの作成

(2) 下剤フローチャート運用後の下剤処方量の調査

①期間 運用前：2021/3/1～2021/8/31 運用後：2022/3/1～2022/8/31

②対象患者 整形外科病棟入院患者

③運用前後の下剤使用患者数、各薬剤の処方量を比較する

3 結果

(1) 下剤を処方提案する際のフローチャートを作成した。(図1)

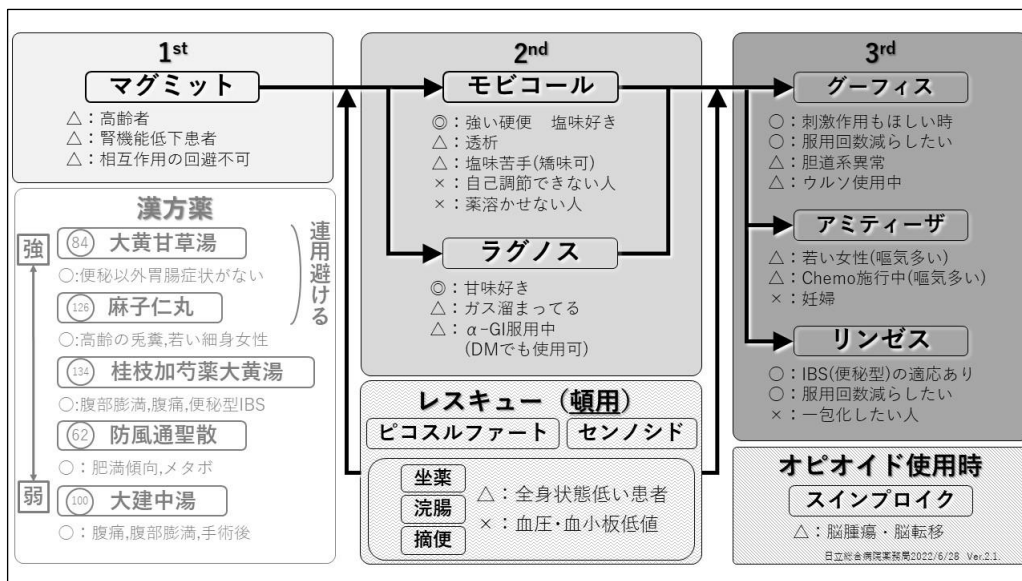


図1 下剤選択フローチャート

(2) 下剤使用患者数は、運用前：186人、運用後：147人であった。下剤の処方量は、センノシドの処方量が約1/3に減少した。また、ナルデメジンの処方量は約4倍、マクロゴールは38倍となった。

4 考察

今回対象とした整形外科の患者では、術後の鎮痛剤としてトラマドール・アセトアミノフェン配合錠を使用している患者が多く見られた。運用前は下剤を多剤併用している患者が多かったが、運用後はナルデメジンの処方が多くなったため結果的に下剤の使用人数も減少したと考えられる。習慣性のあるセンノシドの使用量が減少し、マクロゴールやナルデメジンでコントロールできる患者が増えたことで、今回のフローチャートが適切な下剤選択に有用であったと考える。